

授業科目 発達障害治療学

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	理学
押木 利英子、釧物 充（非）、立石 学（非）		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	◎	○	○	
<p>【概要・一般目標：G10】</p> <p>発達障がいに対する理学療法を実践するために必要な治療原理と理論を学ぶ。</p> <p>小児理学療法の対象となる代表的な疾患（脳性麻痺、染色異常による発達遅滞児、小児整形疾患など）の病態把握、評価、治療の概要を学ぶ</p> <p>小児理学療法の基本的な治療方法を学ぶ。</p> <p>障がい児のADL や社会参加について学ぶ。</p>					
<p>【学習目標・行動目標：SBO】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障がい児に対する理学療法の治療理論が説明できる。 2. 小児理学療法の対象となる代表的な疾患の概要と病態把握ができる。 3. 発達障がいをきたす疾患の評価と治療の概略が説明できる。 4. 小児理学療法の基本的な治療方法が説明できる。 5. 障がい児のADLについて説明できる。 6. 障がい児の社会参加の目的や方法を理解する。 					
回数	授業計画・学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
1	発達障がい学概論		1	講義、ビデオ、担当：押木 利英子	
2	NICUにおける理学療法		2.3	講義、ビデオ、担当：釧物 充	
3	脳性まひ児の評価と治療（1）		2.3	講義、ビデオ、担当：押木 利英子	
4	脳性まひ児の評価と治療（2）		2.3.4	講義、ビデオ、担当：押木 利英子	
5	小児整形外科疾患の評価と治療		2.3	講義、ビデオ、担当：立石 学	
6	染色体異常・知的発達遅滞児の評価と治療脳性まひ児の評価と治療		2.3	講義、ビデオ、担当：押木 利英子	
7	治療法総論（Bobath法、Vojta法など）		4	講義、ビデオ、ほか、担当：押木 利英子	
8	障がい児のADLと社会参加		5,6	講義、ビデオ、ほか、担当：押木 利英子	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		小児理学療法学テキスト（改訂第2版）	田原弘幸、大城昌平、小 塚直樹 他	南江堂	2014・4,200円＋税
参考書		乳児の発達の見方のエッセンス(改訂第2版)	吉岡 博	診断と治療社	2010・1,600円＋税
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
出席、授業態度（質問、意見など）、期末試験、レポート、その他		2年次に学んだ姿勢反射、正常運動発達、発達評価法について、復習しておくこと。			